２０２０年度　社会福祉法人あゆみの会事業報告

総括施設長　　　　胎中晴美

　今年は、新型コロナウィルスに振り回された１年であったといっても過言ではない状況でした。今年度当初より始まったコロナウィルス感染蔓延によるいろいろな機関の閉鎖、自粛の波が我々福祉の事業所にも大きく寄せてきております。

まず、　感染防止の観点から、ほぼ１年間いろいろ計画していた行事が全く開催できず、地域の学校、団体との交流会も皆無の状況となりました。唯一奈良大学の学生の方とはZoomにて交流することができ、利用者との交流もできました。

そして何よりも、今までになく施設での感染防止対策及び、陽性者が出た際の対応を重点的に考え、奈良県・市の感染ステージを基準に利用者への出勤自粛や分散通所を可能な範囲でお願いする期間を設け、理解と協力を求めていきました。また、施設の衛生環境整備に関しては、関連物品（空気清浄機・消毒器具等）の購入と、日々の活動においては各班の交流を極力少なくできるよう活動計画の変更を行い、机やパーテーション等の備品の整備も行いました。また、日々の支援の中では特に体調管理面での朝昼帰宅時の検温、手洗いの励行支援、分散給食等々、今までにない緊張感での日々を過ごした１年でありました。

　これにより、慣れない中ではありますが、陽性者があった場合も職員一同が迅速に対応でき、施設内での感染蔓延を防ぐことができております。

　しかし、中には長期の出勤自粛を選択されている利用者もおり、在宅支援としてリモートでの対応や電話を利用して各家庭と連携し、コロナ終息後再開したときのスムーズな利用につなげられるよう支援の継続を行っています。

　こういった状況が1年以上にわたり、職員の戸惑いや心理的な負担も多くなっているので、、就業環境を整えてできる限り残業をなくし、有給休暇の奨励を行い取得しやすくし、職員ひとり一人の緊張緩和と負担軽減を図っていく必要があります。

　以上のように、我々にとっても新型コロナウィルスへの対応は手探りで、非常に困難な状況にありますが、何よりもみんなの命を最優先に考え正確な情報をしっかりと把握し、どのように対処していけば良いかを、迅速に判断し行動しなければならないと考えます。

　以上のような戸惑うことばかりではなく、　外部会議（法人会議）や研修においては、直接参加できない場合は、リモートでの参加が可能となり、部門においては在宅テレワークも有効な手段として可能となりました。

これから先、いつまでこういった状況が続いていくのかわかりませんが、常時柔軟に対応できる能力と判断力が今まで以上に必要となってくると考えます。社会では『withコロナ』の観点から『新しい生き方を』とよく言われておりますが、従来通りの価値観だけではなく、新しいものにもしっかりと目を向け、何が必要なのかを見極める力が持てるようにならなければと思います。ただし、その根底にはあゆみの会の理念である『みんな支えあうなかま、共に生きるなかま』の気持ちを持ち続けて、ひとり一人の思いに寄り添って、共に歩んでいきたいと考えます。

この状況が一日でも早く収束し、安心安全の社会が戻ることを期待します。

【２０２０年度事業計画の振り返り】

1. 健康プログラムの実施事業

各班別に運動時間を取り込み、実践できている。個人の状況に合わせて計画進行中であり、今後も継続していく。特に今年は健康面の意識が高くなり、日々の活動に生かせている。

1. グループホーム新設準備事業

・富雄ハウスの耐震、老朽化の問題が早急にあり、生駒市高山町に移転することとなった。補正予算にて施設整備積立金を取り崩し、２月に購入完了した。開所は、スプリンクラー関係工事終了後の次年度５月となり終了する予定。

・本来のグループホームの新設に関しては、継続的な計画で進めていく。

1. 利用者支援の充実（環境整備等）

・利用者本人を中心に、本人に理解しやすい個別支援計画になるよう検討を重ねている。

・少人数での活動場所に分ける等の環境整備により、今まであった些細な混乱を回避することができた。

・短期入所や居宅支援等において、他事業所のサービスとの連携を図っていたが、お互いに利用を自粛せざるを得ない状況で、利用者の生活に負担となる部分も出てきている。

・就労支援事業より２名の利用者が一般就労へと結びついた。

1. 職員処遇に関して研修に充実及び給与体系の改善

・社労士と相談しつつ、　給与規定の見直しを行った。次年度４月よりの適用となる。

・研修については、コロナの関係上開催されないこともあったが、場合によってはリモート研修が基本となり参加しやすくなった面もあった。

1. 地域連携の強化

・各学校関係交流会、実習の受け入れ等についてはコロナの関係上できない状態である。

・施設の催しや地域の催しについても自粛状態であったため、全くできていない。

・唯一、奈良大学とはリモート交流でつながっていた。

【次年度の事業計画】

1. 利用者の増員及び支援内容の充実
2. 利用者及び職員の体力つくりメニューの計画と、健康プログラムの実践
3. 新規GH設置計画（継続計画）
4. 職員研修の充実と報告会の実施
5. 地域社会との連携事業
6. コロナ感染予防のための迅速なる取り組み

【２０２０年３月現在の構成】

法人事業の契約者総数：約１００名（GH,日中一時、HH、相談支援、居宅等含む）児童数：約４０名

法人職員総数：８１名

開所日数：２６０日/年間